

みどりは心を癒す

秋谷 進 神奈川県横浜市 四十八歳

私は小児科医である。勤めている病院には、精神科デイケアのために、野菜や花が植えられている。植物を育てることは、癒やし効果があるので、その手入れをスタッフが患者とすることになっていた。収穫物を調理したり飾ったりすることが、リハビリになるのだ。

私の患者の中に友人からのいじめが原因で不登校になった中学生の女の子がいた。事情を知らなかった両親は嫌がる彼女を車で送迎するなどあの手この手を使って登校させていた。彼女はいじめられていることを誰にも言えずに我慢と葛藤をしながら登校していたのだが、やがて、「学校に行けない自分はダメな子」「いじめられるのも自分が悪いから」と思うようになり、自尊心が全くなくなり、食欲もなくなり、夜寝ることができなくなって、死にたいと思うようになったので、私の元に来た。

児童精神科に入院した彼女は一日中寝てばかりいた。しかし、彼女は花が好きで少女だった。私やスタッフが、みどりのために世話をしあげようと声をかけると、少しずつ心を開き、次第に世話をするようになった。朝も規則正しく起きて生活できるようになった。自分が世話をすることにより、みどりが育つを見て、彼女は心を取り戻した。すぐに人と話すことができるようになったわけではなかったが、みどりの成長が彼女の心を救ったことは間違いない。みどりは我々の心のそばにあり、心を癒やしてくれる存在なのだ。